

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年1月14日

【四半期会計期間】 第22期第3四半期（自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日）

【会社名】 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド

【英訳名】 Samantha Thavasa Japan Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 寺田和正

【本店の所在の場所】 東京都港区北青山1丁目2番3号

【電話番号】 03-5412-8193

【事務連絡者氏名】 専務取締役 古市知元

【最寄りの連絡場所】 東京都港区北青山1丁目2番3号

【電話番号】 03-5412-8193

【事務連絡者氏名】 専務取締役 古市知元

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第21期 第3四半期 連結累計期間	第22期 第3四半期 連結累計期間	第21期
会計期間		自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日	自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日	自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日
売上高	(千円)	27,891,194	30,837,481	40,294,070
経常利益	(千円)	1,765,803	1,373,777	3,370,911
四半期(当期)純利益	(千円)	739,631	337,055	1,483,606
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	713,962	324,082	1,389,236
純資産額	(千円)	9,193,595	9,769,399	9,868,868
総資産額	(千円)	22,259,598	25,602,974	21,986,303
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	20.96	9.55	42.03
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	40.2	37.4	43.9

回次		第21期 第3四半期 連結会計期間	第22期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成26年9月1日 至 平成26年11月30日	自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日
1株当たり四半期純損失金額 ()	(円)	3.21	12.54

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりです。

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社レストローズを、連結子会社である株式会社パーンデストジャパンリミテッドとの吸収合併による消滅に伴い連結の範囲から除外しております。

なお合併に伴い、存続会社の商号を株式会社パーンデストローズジャパンリミテッドに変更しております。

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるSamantha Thavasa China LimitedがSamantha Thavasa Shanghai Trading Limitedの全株式を取得したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。また、当社の連結子会社であった株式会社サマンサタバサリゾートを、当社との吸収合併による消滅に伴い連結の範囲から除外しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府や日本銀行の各種政策を背景に、企業部門に改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続きました。一方、円安による輸入価格上昇の影響、中国経済の減速懸念など、景気の先行については不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、外国人旅行者の増加によるインバウンド効果等により好調に推移する一方で、円安による物価の上昇や消費税増税後の節約志向などの、消費マインドの抑制が懸念される状況となっております。

このような状況のもと、当社グループは、「良い人、良い場所、良い商品、良い宣伝」の実施を事業戦略にかかげ、効果的な店舗展開とプロモーション活動及び商品戦略などを展開してまいりました。また、当社グループの2015年のテーマを「記念日」として、様々なキャンペーンを実施してまいりました。

<店舗展開について>

出店戦略として、多くの話題スポットや新しい地域への出店、大型商業施設との取組みなどを行ってまいりました。事業別の出店数、主な店舗は以下のとおりであります。

バッグ事業においては、47店舗を出店いたしました。大阪の万博記念公園にオープンした大型複合施設EXPOCITYに、「サマンサタバサプチチョイス&アニバーサリー ららぽーとEXPOCITY店」「サマンサ&シュエットギャラリー ららぽーとEXPOCITY店」の2店舗を出店いたしました。また、「サマンサ&シュエット」の出店を加速し、「サマンサ&シュエット ギャラリー 名古屋ゲートウォーク店」など16店舗を出店いたしました。また、リニューアルオープンしたルクア大阪に西日本の旗艦店になる「サマンサタバサ ターミナル7 ルクア大阪店」を出店いたしました。また、国内最大級の商業施設であるイオンレイクタウンに、「サマンサベガ イオンレイクタウンkaze店」など、4ブランド出店いたしました。また、沖縄県では初出店となる「サマンサベガ&シュエット ギャラリー イオン沖縄ライカム店」を出店いたしました。さらに、新概念ショップ「ミミマルシェ サマンサタバサプチチョイス」をルミネ有楽町に、新業態店舗「サマンサ&シュエット スイーツ カフェ」を大阪ステーションシティノースゲートビルディング西館商業施設「LUCUA 1100」(ルクア イーレ)に出店いたしました。海外においては、韓国、シンガポールでそれぞれ2店舗、香港、中国でそれぞれ1店舗の出店を行い、合計6店舗出店いたしました。

ジュエリー事業においては、「サマンサティアラ&シルヴァ 仙台エスパル店」を出店いたしました。また、ジュエリーブランド「サマンサティアラ」を大手ファッション通販サイトZOZOTOWNにソフトオープンし、「サマンサティアラ」のプロモーションモデル紗栄子さんとのコラボレーション商品を中心に取り扱いを開始いたしました。

アパレル事業においては、29店舗出店いたしました。株式会社ルミネと共同開発した新ブランド「And Couture(アンド クチュール)」を、ルミネ立川、ルミネ大宮などに出店いたしました。また、昨年度より展開しているブランド「REDYAZEL(レディアゼル)」をSHIBUYA109、LUCUA 1100(ルクア イーレ)、天神地下街、ルミネ横浜などに、「MULLER(ミュラー)」を池袋パルコ、ルミネエスト新宿などに出店いたしました。

その結果、サマンサタバサグループ合計でブランド変更を含め、前年度末比で36店舗増加し、当第3四半期末店舗数は452店舗となりました。

< プロモーション活動について >

プロモーション活動としては、積極的なCMプロモーションや、多数のファッション誌への掲載、ファッションショーへの協賛、ゴルフトーナメントの開催などを継続して行ってまいりました。

バッグ事業においては、世界のトップモデルでサマンサミューズのミランダ・カー出演の「Samantha Thavasa ~365日、毎日が記念日~」のCMを継続して放映してまいりました。秋のCM「Samantha Thavasa ~世界にひとつのサマンサを。~」では、新作の「“M Chou Chou” ~エムシュシュ~」シリーズを紹介いたしました。

また、EXILEのD.N.Aを受け継ぎ本格的なダンスパフォーマンスを展開する女性グループ「E-girls」の楓さん、藤井夏恋さん、藤井萩花さん、佐藤晴美さんが出演し、当社グループの本年度のテーマである「記念日」と連動した「E-girls」の最新曲「Anniversary!!」をCM楽曲とした、「Samantha Vega meets E-girls」のCMを放映いたしました。

さらに、「GENERATIONS from EXILE TRIBE」の白濱亜嵐さん、片寄涼太さん、佐野玲於さんが出演した、「Samantha Vega New CM 2015 AW フェライト編/ラミディ編」のCMを放映いたしました。また、「乃木坂46」を迎え「-夢をかなえる力になる。-」をテーマとした「Samantha Thavasa Petit Choice」としては初となるTVCMを放映いたしました。

また、アジア最高峰のリアルクローズファッションショー「神戸コレクション」「東京ランウェイ」に協賛し、「サマンサタバサ」やアパレルの新ブランド「And Couture」の新作商品をステージでお披露目いたしました。「神戸コレクション 2015 AW」では、先日オープンした「サマンサタバサ ターミナル7 ルクア大阪店」の7ブランドとアパレルブランドの「REDYAZEL」を紹介いたしました。

ジュエリー事業においては、Samantha Tiara & Samantha Thavasa “サマンサティアラ ジュエリー”の第3弾となるCMを放映し、「三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE」から、岩田剛典さん、今市隆二さん、登坂広臣さんが出演いたしました。また、本CMのお披露目会が開業3周年となる東京スカイツリータウン®で行なわれ、CM出演者による東京スカイツリー®オリジナルブルーライティング点灯式も合わせて行なわれ話題となりました。

ゴルフ事業においては、当社グループが主催する日本女子プロゴルフトーナメントである「サマンサタバサ ガールズコレクション・レディーストーナメント 2015」を、7月17日(金)~19日(日)の3日間、茨城県・イーグルポイントゴルフクラブで開催し、大会3日間で過去最高の2万人を超える方にご来場いただきました。

< 商品戦略について >

各事業の全ブランドにおいて多くの新作を販売し、多様化するファッションニーズに応える商品を積極的に展開してまいりました。また、商品の魅力をより高めるプロモーション活動や人気プロモーションモデルとのコラボレーション企画を継続し、商品の販売増に繋げてまいりました。

バッグ事業においては、日本テレビ系列の朝の情報番組「スッキリ!!」とのコラボレーション企画第3弾として、レザーならではの高級感とシンプルでありながらどんなスタイルにもあう多機能性を追求した5WAYバッグ「シャンクルール」を販売いたしました。また、高品質のレザー商品である「レディアゼル」「アゼルラフィー」「アゼル フルーリ」が堅調に推移いたしました。また、2015年秋のCMで紹介した、サマンサタバサの新作でニットとの相性も抜群のクラシカルなフォルムに、シンプルなりボンが可愛い「“M Chou Chou” ~エムシュシュ~」シリーズを販売いたしました。また、昨春に続き三越伊勢丹グループ、バンダイとの共同企画で「美少女戦士セーラームーン」と4ブランドの協業商品を販売し、大好評となりました。さらに、バッグを始めスイーツやかわいい小物など、大人気の「ふなっしー」とのコラボで大きな話題となりました。D23 Expo Japan 2015の開催を記念した“ミニー・マウス”のサマンサグループ限定アートを使ったアイテムや、映画「スター・ウォーズ/フォースの覚醒」の公開に合わせて「スター・ウォーズ」シリーズのバッグや小物、サンリオの人気キャラクター「マイメロディ」の40周年を記念したコラボレーションシリーズなど、話題性のある商品を販売いたしました。また、Samantha Thavasa /SAMANTHA KINGZから初となるMade in Japanの新時計ライン「サマンサウォッチ」の販売を開始し、サマンサならではのオリジナルデザインと日本製にこだわった高級感溢れる新時計ラインの発売が話題を呼んでおります。

ジュエリー事業においては、K18商品を中心に、「サマンサティアラ」の人気シリーズ「Swingle~スウィングル~」や「フラワーレターズ」などが堅調に推移いたしました。また、昨年度に大人気パールシリーズをプロデュースし話題となった「Samantha Tiara」のプロモーションモデル兼コラボレートデザイナーでもある紗栄子さんとのコラボレーションラインの新作ジュエリーを販売いたしました。さらに、高純度プラチナ素材がダイヤの美しさを引き立てる「Samantha LOVE Platinum 998」がデビューし、ブライダルシリーズの強化を図りました。

た。また、「サマンサシルヴァ」ブランドでは、従来の素材より変色しにくいシルバー素材を使用した「Samantha Royal Silver 950」の販売を開始いたしました。

アパレル事業においては、株式会社ルミネと共同開発した新ブランド「And Couture」の販売を開始いたしました。当ブランドは、デベロッパーであるルミネと連携し、ブランドのコンセプトづくりや店舗の内装の段階から、ルミネ独自の世界観に合わせた商品開発を行ってまいりました。

< 組織再編等について >

アパレル事業の組織運営の効率化及び構造改革のため、株式会社レストローズを株式会社バーデストジャパンリミテッドに吸収合併し、商号を株式会社バーデストローズジャパンリミテッドといたしました。また、ゴルフ事業の組織運営の効率化のため、株式会社サマンサタバサリゾートを当社に吸収合併いたしました。

また、中国市場を運営するSamantha Thavasa Shanghai Trading Limitedについて、中国市場におけるブランド認知・浸透をより強化・徹底するために、全株式を取得し連結子会社といたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は308億37百万円（前年同期比10.6%増）、売上総利益は201億52百万円（前年同期比8.9%増）となりましたが、積極的な新規出店に伴う人件費や減価償却費などの先行投資やプロモーション活動に伴う販促費が増加したため、営業利益は13億56百万円（前年同期比18.6%減）、経常利益は13億73百万円（前年同期比22.2%減）となりました。また、アパレル事業構造改革費用、海外事業等再編費用など4億62百万円を特別損失に計上したため、四半期純利益は3億37百万円（前年同期比54.4%減）となりました。

（2）財政状態の分析

（資産）

総資産は256億2百万円であり、前連結会計年度末と比較して36億16百万円増加しております。主な増加要因は、商品及び製品が32億10百万円増加したことなどによるものであります。

（負債）

総負債は158億33百万円であり、前連結会計年度末と比較して37億16百万円増加しております。主な増加要因は、短期借入金が20億92百万円、長期借入金が17億56百万円増加したことなどによるものであります。

（純資産）

純資産は97億69百万円であり、前連結会計年度末と比較して99百万円減少しております。主な減少要因は、利益剰余金の減少によるものであります。

（3）事業上及び財務上の対処すべき課題

該当事項はありません。

（4）研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	134,400,000
計	134,400,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年11月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年1月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	35,296,000	35,296,000	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株であります。
計	35,296,000	35,296,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年9月1日～ 平成27年11月30日		35,296,000		2,132,600		2,252,600

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,293,000	352,930	単元株式数 100株
単元未満株式	普通株式 3,000		
発行済株式総数	35,296,000		
総株主の議決権		352,930	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年8月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成27年9月1日から平成27年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年3月1日から平成27年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,557,379	3,060,751
受取手形及び売掛金	3,271,427	3,096,357
商品及び製品	7,535,192	10,745,684
仕掛品	30,509	13,967
原材料及び貯蔵品	452,530	556,368
その他	1,045,461	1,096,945
貸倒引当金	1,361	1,465
流動資産合計	15,891,139	18,568,609
固定資産		
有形固定資産	1,847,671	2,344,751
無形固定資産		
のれん	813,792	742,742
その他	470,853	540,704
無形固定資産合計	1,284,645	1,283,446
投資その他の資産		
差入保証金	2,369,217	2,876,553
その他	593,630	529,613
投資その他の資産合計	2,962,847	3,406,166
固定資産合計	6,095,164	7,034,364
資産合計	21,986,303	25,602,974
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,452,270	2,639,543
短期借入金	108,600	2,201,400
1年内返済予定の長期借入金	960,864	1,605,524
未払法人税等	1,472,905	9,768
賞与引当金	244,736	583,976
その他	1,729,129	1,908,559
流動負債合計	6,968,504	8,948,772
固定負債		
長期借入金	5,031,376	6,787,769
その他	117,554	97,034
固定負債合計	5,148,930	6,884,803
負債合計	12,117,435	15,833,575

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,132,600	2,132,600
資本剰余金	2,252,600	2,252,600
利益剰余金	5,373,964	5,287,468
株主資本合計	9,759,164	9,672,668
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34,651	37,034
為替換算調整勘定	139,856	141,746
その他の包括利益累計額合計	105,204	104,711
少数株主持分	214,908	201,441
純資産合計	9,868,868	9,769,399
負債純資産合計	21,986,303	25,602,974

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
売上高	27,891,194	30,837,481
売上原価	9,391,543	10,684,791
売上総利益	18,499,650	20,152,690
販売費及び一般管理費	16,833,776	18,796,231
営業利益	1,665,873	1,356,458
営業外収益		
受取利息	994	477
受取配当金	577	630
為替差益	139,121	29,893
補助金収入	707	1,964
その他	2,930	16,093
営業外収益合計	144,332	49,059
営業外費用		
支払利息	27,364	27,701
たな卸資産処分損	11,926	-
その他	5,111	4,039
営業外費用合計	44,402	31,740
経常利益	1,765,803	1,373,777
特別損失		
固定資産除却損	27,459	66,210
固定資産売却損	42	-
海外事業等再編費用	-	147,339
アパレル事業構造改革費用	-	247,550
その他	-	935
特別損失合計	27,502	462,035
税金等調整前四半期純利益	1,738,301	911,741
法人税、住民税及び事業税	939,499	589,711
法人税等調整額	119,014	5,137
法人税等合計	1,058,514	584,574
少数株主損益調整前四半期純利益	679,787	327,167
少数株主損失()	59,843	9,888
四半期純利益	739,631	337,055

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	679,787	327,167
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14,205	2,383
為替換算調整勘定	19,970	5,467
その他の包括利益合計	34,175	3,084
四半期包括利益	713,962	324,082
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	759,773	337,549
少数株主に係る四半期包括利益	45,809	13,466

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社レストローズを、連結子会社である株式会社バーンデストジャパンリミテッドとの吸収合併による消滅に伴い連結の範囲から除外しております。

なお合併に伴い、存続会社の商号を株式会社バーンデストローズジャパンリミテッドに変更しております。

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるSamantha Thavasa China LimitedがSamantha Thavasa Shanghai Trading Limitedの全株式を取得したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。また、当社の連結子会社であった株式会社サマンサタバサリゾートを、当社との吸収合併による消滅に伴い連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

当社の連結子会社である株式会社バーンデストローズジャパンリミテッドが加入する「東京アパレル厚生年金基金」(総合型)は、平成26年4月24日開催の代議員会において、基金解散の方針が決議されました。なお、基金を解散するにあたり、特例解散の適用を申請する予定であります。同基金の解散により費用の発生が見込まれますが、解散に伴う費用の金額と業績に与える影響につきましては、現時点では不確定要素が多く、合理的な見積り金額が算定できません。今後、見積り金額が判明した時点で、会計処理を行います。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日)
減価償却費	472,576千円	731,043千円
のれんの償却額	71,050千円	71,050千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月29日 定時株主総会	普通株式	141,184	400	平成26年2月28日	平成26年5月30日	利益剰余金
平成26年10月15日 取締役会	普通株式	176,480	5	平成26年8月31日	平成26年11月7日	利益剰余金

(注) 当社は、平成26年3月1日付で普通株式1株当たり100株の割合で株式分割を行っております。当該株式分割は平成26年3月1日を効力発生日としておりますので、平成26年8月31日を基準日とする1株当たり配当額につきましては、株式分割後の株式数を基準に記載しております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年3月1日至平成27年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月28日 定時株主総会	普通株式	247,072	7	平成27年2月28日	平成27年5月29日	利益剰余金
平成27年10月15日 取締役会	普通株式	176,480	5	平成27年8月31日	平成27年11月9日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」という単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額	20円96銭	9円55銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	739,631	337,055
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	739,631	337,055
普通株式の期中平均株式数(株)	35,296,000	35,296,000

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

第22期(平成27年3月1日から平成28年2月29日まで)中間配当については、平成27年10月15日開催の取締役会において、平成27年8月31日の最終の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	176,480千円
1株当たりの金額	5円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成27年11月9日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 1月14日

株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大	橋	一	生	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中	井	清	二	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドの平成27年3月1日から平成28年2月29日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成27年9月1日から平成27年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年3月1日から平成27年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド及び連結子会社の平成27年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。